

たばたあずみ



Tell・Fax
550 6674

山根とみえ



Tell・Fax
550 4224

戸沢ひろゆき



Tell・Fax
558 9721

秋川流域市町村議会議員大会 たばた議員が意見発表

2月14日、檜原村役場3階の住民ホールにて、秋川流域市町村議会議員大会が開催され、各市町村から2名ずつの議員が意見発表を行ないました。日本共産党あきる野市議団のたばたあずみ議員が発表しましたので、意見発表内容をお知らせします。

「市民協働」について考える

意見発表をするたばたあずみ議員



も減って高齢化率が上がっています。「若い人が入らず、大変なのに、市からの協力要請は増えるばかり。安上がりで利用するのも大概にしてほしい」という怒りを含んだ自治会長さんの声は、決して一部だけのものではありません。

こうした市と自治会・町内会の関係は対等な立場であるとは思えません。一方的で、本来ならちからづよい協力者となりうる自治会・町内会を、むしろ追い詰めているようにさえ思えてしまいます。

あきる野市議会議員のたばたあずみです。「市民協働」について考えるという題で、意見を述べます。

「市民協働」ってなんだろう

「市民協働」という言葉の意味を考えたとき、わたしが思い描くのは、行政と市民とが対等な立場で、お互いに協力し、補い合っまちづくりを進めていく姿です。

しかし、少なくともあきる野市で現実に「協働」と称して行なわれていることは、行政の求めに応じて市民が働くこと。次々と求められる取り組みに、自治会などからは役員が大変すぎて役員のなり手がいない、自治会に入らない人が増えているとの嘆きもあがっているほどです。

これが、「市民協働」の生み出すものだとなれば、なんと悲しいことでしょうか。

自治会・町内会には負担ばかり

たとえば、自治会・町内会には配るべきお知らせが毎日のように届きます。さらに避難訓練、高齢者の見守りなど、本来市がやっているべき取り組みへの協力、ひらたくいえばその実行部分のすべてが任されています。その一方で補助金は削られ、特に旧秋川地区では、加入者

市民の声は届かず...

また、以前、市内に新しい図書館を作る際、市の説明では住民から意見を聞いたことになっていましたが、実際には、利用したいと思っている幅広い世代の市民からの聞き取りはされず、自治会長など一部の意見を聞いたに過ぎませんでした。一市民として、その建設計画を聞いたとき、図書館をつくるならゆっくり過ごせるロビーや、子どもたちが座り込み、寝転がって絵本を楽しむ書架などを願っていたわたしや友人たちは、自分たちの声など聞く価値も感じてもらえないのだとがっかりしました。

できあがった図書館（東部図書館エル）は賞をとるほどつくしく、それなりに使いやすいものでしたが、市が勝手につくったという感覚は抜けず、「わたしたちの図書館」とは呼べません。

「市民協働」は、お互いを大切に思いあう関係あってこそ成立するものです。自分たちを大切に思ってくれているという実感がないところに、市のために協力するという気持ちが生まれなくても当然です。



秋川高校跡地でも また...？

あきる野市はいま、秋川高校跡地の利用という課題を持っています。市は企業誘致に向けて取り組みを進めるといいますが、それ以外の案、市民の考えをどれほど検討したでしょうか。確かにパブリックコメントはとりました。しかし、15日間という短い期間で、募集したというだけです。集められた意見が発表されることも、反映されることもない。市民の求めているものを聞く姿勢がそもそも欠けています。

市民が描く「あきる野の未来」

ある市民グループは、秋川高校跡地を市民のために活用したいと考えています。市民に何に使ってほしいか、聞いてほしいといえます。彼ら自身も、次々と案を上げています。老人ホームや公園がほしい、動物とのふれあいの場に、市民農園はどうか、さまざまな年齢の人が集える施設を・・・などなど、たとえ荒唐無稽に思える意見でも、意見を出すことはすばらしいと思います。それは、市民が夢を描くことであり、夢を語っているとき、彼らは、確かにいきいきと輝いているからです。

中でも、わたしが興味を持っている案のひとつは、敷地の広さを生かして、いろいろなことのできる空間を作るというものです。市民農園は、それを望む人たちと、教えてくれる人とで協力して作ります。こどもの遊び場も、どんな遊び場がほしいのか、こどもたちが考え、協力してくれる大人を集めて作ります。楽器の演奏ができるスタジオ、若者のたまり場、会議室なども、ほしいと思う人たちが力を合わせてログハウスを建てます。資金



や材料は、募金や市内の企業に提供を呼びかけるなどして集めます。

そのなかで市が求められていることは、ともに考えること、呼びかけの手伝いや、技術者の要請、資金援助、とりまとめなど、対等な立場に立って支援することです。



市民があきる野市の将来を、夢を持っていきいきと語り、市が協力して市民の夢を実現させ、生きがいを持って生きる活動につなげていく。そうした活動の中で生まれたつながりが、行政の求める取り組みの協力者になることも大いにありえるでしょうし、なにより、市が市民の意見を聞き、市民のために協力してくれると実感した市民は、自分の住むまちに誇りを持ち、協力しようと思うでしょう。

ほんとうの「市民協働」を

対等な立場で、お互いのために働こうと思う、ほんとうの「市民協働」が始まるのは、こうしたお互いの信頼関係を築く経験を積み重ねた結果です。そのためにいま、市は市民の声を聞き取る努力を、市民の声を聞きたいと思う気持ちをもつ必要があります。そうして生み出される、ほんとうの「市民協働」を、その先にある、市民に愛され、誇られるあきる野市を、わたしは見てみたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

法律相談

2013年6月27日(木)

13時30分～15時

予約が必要です。市議団までご連絡ください。

